

平成 28 年度

事業計画

学校法人 高知学園

目 次

| | (ページ) |
|--------------------|-------|
| I 高知学園短期大学 | 1 |
| II 高知中学高等学校 | 8 |
| III 高知小学校 | 10 |
| IV 高知学園短期大学附属高知幼稚園 | 13 |
| V 高知リハビリテーション学院 | 14 |

はじめに

本学園は、明治32年の創立以来、平成28年度で117周年を迎える。「至誠をもって事にあたり、人に信頼される人物の育成」を教育の基本としており、学園のシンボル「世界の鐘」の音に込められた「世界の平和と友愛」の精神の醸成にも努めている。

平成27年度現在、設置する短期大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園及びリハビリテーション学院までの学生生徒等数は約2,840名、専任教職員数は約210名を擁する高知県下では唯一の総合学園として発展してきた。

近年の少子化をはじめ、学校をとりまく環境はますます厳しい状況下にある。

学生・生徒や保護者の期待に応えるには、時代のニーズを踏まえた教育活動を充実強化し、教育の質の更なる向上が喫緊の課題である。そのために、教員の資質の向上と指導力の充実に向けた取り組みを継続的に実践するとともに、総合学園という特色を生かした連携教育を推進する。

また、経営の一層の安定化を図るために、全学校が共同して実施する募集イベントの開催（GAK UEN F e s t a）をはじめ、各学校が創意工夫を凝らした募集活動を強化する。

こうした取り組みを中心に、各学校の基本方針、重点目標、教育研究計画、学生・生徒等募集計画、人事計画等についての平成28年度事業計画を作成する。

I 高知学園短期大学

1 基本方針

「世界の鐘」の呼びかける平和と友愛の精神を柱とし、自由と規律を尊び、真理を深め、創造性と情操を培い、広い教養と健全な社会性を身につけた短期大学士の学位を有する専門的職業人を育成する。

2 重点目標

- (1) 入学者確保のために、入学希望者、高等学校及び保護者に向けた、より効果的な募集活動を行う。
- (2) 全学的な取組として、授業改善をはじめとする、教員の教育力の向上やキャリア形成支援を充実させ、学生の学士力、就業力や社会性の醸成、さらには本学オリジナルの取組みである社会人基礎力プラス1「キャリア形成基礎力」の更なる向上・充実に努める。
- (3) 文部科学省の科学研究費補助金等外部資金の獲得に努め、教育・研究の更なる質の向上を目指す。

- (4) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク等の活用により FD（教員能力開発）活動と SD（事務職員能力開発）活動を推進し、教員の教育力向上及び事務職員の事務遂行能力の向上に努める。
- (5) 短期大学の中長期的な将来構想について調査研究する。
- (6) グローバル化への対応として、北京大学をはじめとする他大学との交流連携の拡充を図る。
- (7) 国家試験受験者全員の合格を目指し、当該学科教員は教員同士の連携の強化を図り取り組む。
- (8) 学習効果を高めるための、施設・設備の拡充を図るとともに、学生の安全確保のために設備等の点検・充実を図る。
- (9) 震災対策等の体制の強化を図る。
- (10) 公開講座、生涯学習及び健康教育などの「地域貢献」に資する活動を展開するとともに、「産学官連携」事業にそなえる。
- (11) 高知學長会議を基本とする、三大学短期大学及び高等専門学校間の連携を強化する。

3 教育研究計画

3-1 教育・研究

入学者全員を卒業させるという原点に立ち、学科・専攻の教育計画はつぎのとおりである。

(1) 生活科学学科

教育

- ① 食・栄養に関わる理論と技術を多様な講義や実習、演習を通じて、きめ細な指導を行い食・栄養に関わる医学的知識を備えた栄養士を育成する。
- ② 食・栄養の知識・技術及び、基本的なマナーの指導を行い、社会性に富んだ学生を育成する。また、学生の動向については日常生活全般にも気を配り、全教員が指導できるよう努める。
- ③ 栄養士実力認定試験準備講座をさらに充実させ、栄養士実力認定試験において「認定 A（栄養士として必要な知識・技能に優れていると認められた者）」の割合が多くなるよう栄養士専門科目の指導の充実に取り組む。
- ④ 卒業生を対象とした管理栄養士国家試験準備講座（生涯教育として実施）をさらに充実させ、専門性を高める教育を行う。
- ⑤ 多様な進路選択に対応するため、将来の生き方等を含めた将来設計をたてることのできるようキャリア教育科目の充実に取り組む。
- ⑥ 教育効果を高めるための教員の指導力・実践力の向上と協働体制の確立を図る。

研究

- ① 平成 27 年度に引き続き、論文発表や学会発表を積極的に行い、それぞれの分野の研究能力を高めるとともに、その知識や技術を教育に還元するよう努める。
- ② 個別研究と並行して、研究グループを組織して、研究活動の活性化を図る。

(2) 幼児保育学科

教育

- ① 本学科が定めた教育課程編成・実施の方針に基づいて、教育効果のさらなる向上を図るべく教育課程の検証と必要に応じて改善・工夫を行う。
- ② 本学科が定めた学位授与の方針に基づいて、全学生が幼稚園教諭、保育士資格の両免許・資格を取得し、それぞれの職に対する誇りとその職責の重要性を深く認識できるよう努める。
- ③ 本学科が定めた入学者受け入れの方針と学習成果の獲得との関連に基づいて学習活動や学生生活全般のあり方とその指導体制を検証し、全学生が学習成果獲得を実現できるよう、教員個々の教育力・実践力の向上と協働体制を確立する。

研 究

著作・論文発表、学会発表、作品発表等を行い、それぞれの分野の専門性を高めるとともに、その知識や技術を教育に還元するよう努める。また、専門性の枠を越えた保育者養成のあり方に関する共同研究を模索する。

(3) 医療衛生学科

(3-1) 医療検査専攻

教 育

- ① 時代に即した実践力のある臨床検査技師を養成するために、学内教育の充実と臨床現場との連携を強化する。
- ② 臨床検査技師国家試験合格率 100%を目指し、国家試験対策の工夫と充実を図る。
- ③ 在学中に取得できるバイオ技術者認定、救急法救急員認定、健康食品管理士認定などの認定試験に積極的に取り組む。
- ④ 現在進行する臨床検査技師教育の4年制化に対応するために、本学専攻科応用生命科学専攻への進学を推奨する。また他大学への編入学を積極的に支援する。
- ⑤ 現代学生の特質を踏まえた教育を実践するためにFD研修に積極的に参加し、教員の指導力を高め授業改善を図る。また、協働体制を確立し、総合力を高め学生の指導の充実を図る。
- ⑥ 宣誓式、ようこそ先輩など、学生のモチベーションを高めるための事業や、社会人力等を身につけるためのキャリア形成教育を強化する。
- ⑦ 休退学防止の対策を充実させる。
- ⑧ 医療検査専攻の特色を生かした卒後教育、公開講座、生涯学習、子どもゆめ基金支援事業などを開催する。
- ⑨ 健康・福祉・医療分野の社会への啓蒙啓発活動に積極的に参加する。
- ⑩ 高知県で開催される第49回日本臨床検査技師会中四国支部医学検査学会に協力し、「中高生のための職業紹介」事業に参画する。

研 究

- ① 各教員が年度内に論文発表、学会発表を計画的に行う。
- ② 研究業績を上げるために学内外の共同研究を働きかける。また研究セミナーを開催し研究活動の促進を図る。
- ③ 科学研究費などの外部資金獲得に積極的に応募する。

(3-2) 歯科衛生専攻

教 育

- ① 医療人としての倫理観や人間性そしと専門職にふさわしい専門的知識の指導の充実に努める。
- ② 学生の主体的な学びとなるようアクティブラーニングを取り入れ意欲の向上に努める。
- ③ 1年次よりキャリア形成教育を通して社会人としての生き方、思考力などの充実に努める。
また2年次には就職フェア等を通じて、社会人になる前の心構えを早期から実践し意識の高揚を図る。また、キャリア講演会等に積極的に参加する。
- ④ 臨床実習において、学生が各期の目的を達成できるよう歯科医師会、各期実習先の歯科医師、歯科衛生士との調整・連携を強化する。
- ⑤ 健康教育活動を通して、地域社会との連携を深め、健康な社会づくりに貢献できる活動を実践する。
- ⑥ FD研修、公開授業等を通じ教員の教育力・実践力及び協働体制の確立を図る。

研 究

- ① 各教員が年度内に学会発表等を行うことを目標とする。
- ② 専門分野への方向性を視野に入れ、より専門を極め各教員が積極的に研究活動に努める。
- ③ 外部資金取得を目指す。

(4) 看護学科

教 育

- ① 昨年度に引き続き、学生の主体性を高めるための教育技術向上プロジェクトを具体的に稼働し、教員の指導力・実践力の向上を図り授業改善に取り組む。また、教員の協働体制を確立し、総合力を高め学生の指導を充実させる。
- ② 実習施設連絡調整会議及び各施設における実習指導者連絡会の効果的な運営により、相互理解に基づいた実習施設との信頼関係の強化を図り、実習施設の確保に努める。
- ③ 臨床講師との意見交換会を開催し、臨地実習に関する指導体制の一層の充実に努め、臨地実習の質の保証に努める。
- ④ 「戴帽式」や「ようこそ先輩」「生涯学習」などの事業や授業を連動させた、入学前から卒業後まで視野に入れた看護専門職としてのキャリア形成支援の充実に努める。
- ⑤ ボランティア活動等、課外活動の積極的な推進を通じて、キャリア形成基礎力の向上・充実に努める。

研 究

- ① 各教員が年度内に学会発表や論文発表を行うことを目標とする。
- ② 学科全体で共同研究体制を整え、科学研究費等の外部資金の獲得をめざす。

(5) 専攻科

(5-1) 応用生命科学専攻

教 育

- ① 全学生の学士（保健衛生学）取得、および「上級バイオ技術者認定試験」では全員合格を

目指す。

- ② 今後の必要性が確実視されている「医療情報技師」資格試験の受験者および合格者の増を目指す。
- ③ 日本臨床検査教育学会などでの学生研究発表に向け、修了研究の一層の質的充実を図る。
- ④ カリキュラムの見直しは定期的・計画的に行い、大学院進学を考慮した教育指導も行う。
- ⑤ 教育活動の充実を図るため教員の指導力・実践力の向上及び協働体制の確立を図る。

研 究

研究能力の向上および研究業績を上げるよう努め、外部資金獲得を目指す。

(5-2) 専攻科地域看護学専攻

教 育

- ① 学生が自ら学び、発言する力をもてるよう問題探究型学習法を採用する。またこの学習方法を効果的にならしむための教員の指導力の向上に努める。また、協働体制を確立し指導の充実を図る。
- ② 公衆衛生看護のイメージ化を促進しリアリティを持った学習ができるよう公衆衛生看護学概論にフィールドワークを組み入れる。
- ③ 大学評価・学位授与機構による看護学学士取得に向けた研究指導の質を保証するために作成した修了研究Ⅰ・Ⅱのルーブリックを実用可能なものに洗練化する。
- ④ 地域看護学実習での修得科目の統合がよりスムーズになるよう、公衆衛生看護実践論の質的評価を行い、教授内容に倫理的要素を加える。
- ⑤ 早期から保健師、養護教諭の就職試験対策を行うために、看護学科との連携をシステム化する。

研 究

- ① 専攻科生のキャリア意識について、共同研究を行う。
- ② これまでの修了研究を学会発表できるよう卒業生に働きかけ、発表に向けて支援する。
- ③ 個々の教員の研究を発展させ、科学研究費等の外部資金の獲得をめざす。

3-2 地域貢献

- (1) 論文発表、学会発表、作品発表を積極的に行い、それぞれの分野の専門性を高めるとともに、その知識や技術を教育に還元するよう努める。また、産学官民連携センター（ココプラ）を通して、本学の持っている知的貢献の充実を図る。
- (2) 個別研究と並行して、研究グループを組織して、研究活動の活性化を図る。
- (3) 健康・福祉・医療分野の社会への啓蒙啓発活動に積極的に参加する。
- (4) 国・県との連携を深めながら各学科・専攻の特色を生かした卒業教育、公開講座、生涯学習などを開催する。

4 進路指導計画

- (1) キャリア形成支援

- ① キャリアセンターの拡充を図り、個々の「キャリア形成基礎力」の醸成に努め、希望する進路実現への支援を強化する。
- ② 本学作成の「キャリアノート」(全3冊)に加え、新たに作成した小冊子「新社会人に贈る12のメッセージ」の活用を推進し、学生自身のキャリア形成の意識の向上を図るとともに、人生観、職業観の基礎を養うように努める。
- ③ 学生の就業力、社会人基礎力の向上・充実に向けて全学的に取り組むための、セミナーや講演会等の企画立案に努める。

(2) 就職指導

① 求人開拓

県内を中心とする施設、就職委員会を中心に、担当課と専門職員の連携により企業訪問等を行うと共に、本学の理解啓発に努め求人開拓をより効果的に行う。また県市町村の公務員関係や各種団体等に準ずる職場の情報収集を更に積極的に行い、就職分野の拡大に努める。

② 就職指導の向上

基本的な生活習慣をはじめとする、企業等が求める基礎力の指導を行う。また、入社試験等の対策として、会社訪問の基礎知識、エントリーシート・履歴書・礼状の作成指導や面接指導、ビジネスマナーの基礎知識等きめ細かな指導の充実を図る。

③ 就職に関する資料の充実

本学卒業生の就職データ、求人票、求人に関する資料等の充実を図り、学生が積極的に就職活動を行えるよう努める。また就職に関する書籍・参考書・DVD等の資料の拡充を行い就職支援の環境を整えることに努める。

④ IT関連の整備

ITシステム「学生支援システム」の活用促進のため、情報の入力・情報の提供を迅速に行い、学生の希望する情報の提供に努める。また、パソコン等の機器の充実を図り、学生が自由にエントリーや資料の閲覧を行えるよう環境を整備する。

(3) 進学指導

本学専攻科への進学指導

応用生命科学専攻及び専攻科地域看護学専攻への進学について、担当教員との連携を行い、学生の意識の高揚を図り定員の確保に努める。

5 学生募集計画

(1) 入学試験

特別推薦選考(9月)、自己推薦選考A(10月)、推薦選考(11月)、自己推薦選考B(12月)、試験選考A(2月)、試験選考B(3月)及び社会人選考(10月・2月・3月)を実施する。

(2) オープンキャンパス

- ① 年4回(6月～9月)実施する。遠隔地域(幡多方面・室戸方面・嶺北方面)からの参加者の無料バス送迎を行う。(7月・8月)
- ② 各学科・専攻が毎年のテーマに沿って特色ある授業や実習などを体験するよう企画する。また年ごとに参加増加の傾向にある保護者のために、「保護者のためのガクタン講座」を開講

し、本学の理解を深める。

(3) 高校訪問

県内の高等学校の進路指導部教員に対する入試説明会を開催し、入試に関する情報提供を行う。訪問に際しては、学校説明会やオープンキャンパスの案内等時期に応じた情報提供に努める。

(4) 高校の模擬授業等

県内の高等学校が開催している進路指導会等に積極的に参加するとともに各学科・専攻の教員が模擬授業や講演会等に積極的に協力するよう努める。

(5) 高校生の本学受入れの充実

本学訪問希望の学校が増加傾向にあり、その受け入れのための企画の充実を図り、本学の理解を深めることができるよう努める。

(6) 高知高校との連携

フェロウシップを通じて連携の強化を図り、本学進学についての情報の提供、模擬授業、実習等の充実を図る。

(7) 広報活動

① 「社会にいちばん近い大学」として本学のイメージは定着してきており、24年度より「ガクタンスタイルでいこう」「スイッチオンガクタンスタイル」「学びが私のミライをつくる。」「磨け、拓け、明日」をサブキャッチコピーとして、大学案内等の募集ツールの拡充を行ってきた。今後もさらに親しみある地域の短期大学としてのイメージ作りに努める。

② 媒体を利用した広報

新聞・ラジオ・テレビによる広報は、時期を選びながらより効果的に告知ができるよう努める。特に企画商品を利用し安価で効果の高い広報に努める。

③ ホームページの活用

学内の活動、在学生の活躍等本学のイメージアップ、理解啓発に資するようホームページの充実に努める。

④ 進学情報誌と関連のWebの活用による進学希望者への情報発信に積極的に取り組む。

6 人事計画

(1) 本務教員は、前年度と同様の57名となる計画である。

(2) 兼務教員は、教育課程の改正等により、前年度より10名程度増の141名を予定している。

(3) 事務職員は、前年度と同数の本務職員17名（本部職員3名を含む）、兼務職員は、12名を予定している。

7 図書館

(1) 学習環境整備

① 開館時間の延長を継続し、資格取得を目指した学習を支援する。

② 利用者用パソコンの台数を増加し、学習形態の変化に対応した学習環境を整える。

③ 現在あるパスファインダー（資料・情報検索ツール）の更新、種類の増加を図り、利便性

を高める。

- ④ 蔵書点検は、各学科・専攻の行事予定に合わせ学習研究活動に支障の無いよう細心の注意を払って行い、資料の整理を進める。
- (2) 図書館システムの入替え
現行のシステムが保守終了・製造中止となるため、新システムを導入して現行システムからの入替えを行い、大学の教育研究活動に即した機能整備を図る。
- (3) 高知学園短期大学紀要第46号の発行
- (4) 図書館報「らぶっく」の発行
発行によって学生が図書館機能および利用方法について理解を深め、新着図書等の情報発信で図書館への関心を高め、一層の利用促進につなげる。
- (5) 学生図書館委員の活動
利用者の立場からの意見を反映し、学生・図書館職員・図書館運営委員との連携により、図書館利用の活性化につながる活動を支援する。

Ⅱ 高知中学高等学校

1 基本方針

個々の進路選択に応じた教育課程を編成し、教科・課外活動を通じて個性を伸ばし、信頼される人間育成を目的とする。

そのためには、すべての教職員が時代のニーズや課題に向き合い意識改革に努めるとともに、指導力の向上を目指す。

2 重点目標

- (1) 入学生の確保に向けて戦略的な対応を行う。学校の魅力化に取り組むとともに、学習塾及び公立中学校訪問、高知市内及び近郊の小学校並びに中学校への学校案内・募集要項の配布、各中学校説明会への参加、地域別学校説明会及びオープンスクールを開催する。
- (2) 教員の資質・指導力の向上を図る。このため、各教科内で教科主任を中心として研修機運を高めるとともに、予備校の教員研修プログラム等への派遣を積極的に行う。
また、提携している県・市の研修も活用する。さらに、定期的に授業評価を行うとともに、公開授業や校内授業研究を実施する。
- (3) 基礎学力及び学習習慣の定着を促す。中高一貫の立場から教科指導の改善と体系化を図るなかで、学力の向上を目指す。なお、特進コースの活性化により進路実現の向上を目指す。
- (4) 社会人としての生きる力を育てる。中高6年間を見通した『自立教育推進プラン』のもと、感性を育む教育やモチベーションを大切にする教育を通して社会人としての生きる力を育てる。
- (5) 人権教育・特別支援教育に関する意識の向上を図る。研修による指導力向上と組織的連携を図りながら、問題行動・不登校・いじめ・中途退学などを抑制する。

また、支援・配慮を要する生徒の情報の共有に努めるとともに、引き続き非常勤のスクールカウンセラーを置く。

- (6) 部活動は本校の教育活動の特色の一つであり、好成績を収めている。指導者の充実、部活動の新設等も含め、更なる実績の向上を目指す。
- (7) 教育効果を高めるため、必要に応じて施設設備の改善と充実を図る。

3 教育研究計画

- (1) 教科指導力の向上を図るため、近隣予備校等の教員研修講座等への派遣を継続する。併せて先進校視察を積極的に取り入れる。
- (2) 5教科については生徒に参考書・問題集をもたせ、体系的な教科指導を工夫していく。
- (3) 自立学習応援プログラム「すらら」を継続し、学習習慣と基礎学力の定着を図る。
- (4) 到達度の高い生徒に対して、勉強合宿を実施する。
- (5) 中学においては、部活動生の学習支援策として、大学生等の支援のもと、補習授業を実施する。
- (6) 高校においては、休業日の土曜日も加えて英数国を中心とした補習授業を継続する。
- (7) 全教員が、担当するそれぞれの授業において生徒による授業評価を定期的に受けることにより、資質・指導力の向上を図る。
- (8) 大学受験の中核科目となる英語の実力養成につなげるために、外国人による『英語を使った英語授業』（中学）、英語検定対策補習（高校）を継続する。
- (9) 長期休業日における5教科の課外補習を実施する。

4 生徒募集計画

- (1) 学校ホームページの充実、学校便りの発行等により、学校行事や部活動をはじめ学校生活の様子を適宜紹介するなど積極的に情報発信を行う。
- (2) 6月及び11月にオープンスクール（学校説明会・入試説明会）を実施する。
- (3) 広報の裾野を拡大する意味から、8月から10月にかけて小学生を対象として、外国人による英会話や『チャレンジ・イングリッシュ』講座を開催する。
- (4) 安芸・四万十両地区での受験会場を継続設置する。
- (5) 高知県私立中学高等学校連合会主催の“2016私学フェア”に参加する。

5 人事計画

- (1) 本務教員は、前年度より3人減の71名を予定している。
- (2) 兼務教員は、前年度同数の14名を予定している。
- (3) 本務職員は、前年度同数の5名（本部職員1名を含む。）を予定している。
- (4) 兼務職員は、前年度同数の14名を予定している。

6 その他の計画

- (1) 進路に対する意識を高めるために、生徒・保護者を対象に進路講演会を開催する。
- (2) 生徒の進路意識や社会性を向上させるために、本校OBや保護者を中心に講師として招き、講

演会を開催する。

- (3) 学短・高知リハ進学フェローシップを継続する。同様に高大連携授業も継続する。
- (4) 大学講義体験講座や職業人講話を継続実施していく。
- (5) 進路意識の高揚のために大学見学ツアーを実施する。
- (6) 生徒の生活や学習習慣及び基礎学力を確認するために、高1・2においては年2回のスタディーサポートを、中学においては年1回学習到達度テストを実施する。
- (7) 生徒・保護者・教員による学校評価アンケートを実施し、課題と成果を明確にする。
- (8) 自立学習の一環として、服育等の講演会を実施する。
- (9) 朝の読書を推進するとともに、図書館の内容を充実させ、生徒の利用率向上を目指す。
- (10) 心の教育の一環として、教員と生徒が力を合わせて教室環境の改善に取り組む。
- (11) 防災避難訓練を実施するとともに、学校施設設備の安全管理を徹底する。

Ⅲ 高知小学校

1 基本方針

高知学園の教育方針に示された「至誠をもって事にあたる人間の育成」を教育の根幹におき、学園の教育精神をシンボライズする「世界の鐘」と「校章の橘」をもとに「まごころをつらぬく子」を育成する。

めざす子ども像

・勉強にうちこむ子 ・仲良く助けあう子 ・ねばりづよい子 ・ゆたかな心の子

学校教育目標

- (1) 一人ひとりを見つめた徹底した教育を実践する。
- (2) しつけ指導をはじめ品性の陶冶をその根底に置き、一般的な学力を高めると同時に、算数と理科を基礎とした科学教育、英語教育を重視する。
- (3) 子どもの夢と希望を叶え、保護者の信頼度が高く、魅力ある学校づくりを行う。

2 重点目標

- (1) 確かな学力の定着と向上
 - ①教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実を図る。
 - ②基礎学力の定着と向上のうえに、進学指導を充実・強化する。
- (2) 豊かな人間性の育成といじめ・不登校のない学校づくり
 - ①人格形成を基調として、知・徳・体の調和のとれた子どもを育成する。
 - ②質の高い道徳教育やしつけ指導の徹底により、豊かな心を育て、子どもどうしが支え合う人間関係づくりのできる子どもを育てる。
- (3) 健康な体づくりと体力の向上
 - ①基本的な生活習慣を確立させるとともに健康教育を積極的に行う。

- ②体育・体育的活動の日常的な実践を行う。
- (4) 魅力ある学校づくりの推進
 - ①総合学園としての位置づけのなかで、幼・小・中高連携教育を推進する。
 - ②科学教育、英語教育の充実・発展を図る。
 - ③児童や保護者の意見を学校運営に反省し、信頼度の高い学校づくりを進める。
- (5) 児童募集活動の見直しと強化を図り、募集定員確保に努める。その為に、魅力ある学校づくり、信頼度の高い学校づくりを推進するとともに、保幼との連携をより強固なものにしていく。

3 教育研究計画

- (1) 確かな学力の定着と向上に向けた取組

積極的な学習態度を養うとともに、一人ひとりの個性や可能性を尊重した指導を行う。

 - ①校内研究授業、外部講師を招いての研修会の充実を図るとともに、自己研鑽に努める。教員個々の力量を高めることで授業の質的向上を図り、「楽しくてわかる授業」の確立に努める。
 - ②教科担任制やTTを継続・推進して、学力の定着と向上を図るとともに、個々の児童に対応した学力保障を行い、学力差の拡大を防ぐ。
 - ③1時間1時間の授業内容の充実を図り、各学年に必要な基礎的・基本的事項の習得の徹底を図る。
 - ④授業評価を活用することで授業改善を行い、よくわかる楽しい授業を創る。
- (2) 豊かな人間性の育成といじめ・不登校のない学校づくりに向けた取組

人と人とのかかわりを大切にする心を養うために、道徳教育・特別活動・生徒指導の充実を図る。

 - ①自ら判断し、実行できる力を養う。
 - ②命を大切に、仲間を大切にする心を養う。
 - ③友達の個性を尊重し、互いに認め合う人間関係づくりを支援する。
 - ④責任を自覚し、積極的に自分の役割を果たせるよう支援する。
 - ⑤学校カウンセラーの来校回数（週8時間体制）を維持し、教育相談体制の充実を図る。QU（Questionnaire-Utilities）アンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施して学級経営に活かす。
 - ⑥図書館教育の充実を図る。（図書室の環境整備、蔵書の充実。）保護者による「読み聞かせ」は児童の心を耕し、読書意欲につながるので継続する。
 - ⑦将来への夢を育むキャリア教育の推進と体験活動の充実を図る。
- (3) 健康な体づくりと体力の向上に向けた取組

自分の健康や体力に関心を持ち、積極的に健康づくりや安全なくらしができるように指導の充実を図る。

 - ①早ね・早起き・朝ごはん等への取り組みを通して、基本的な生活習慣を確立する。
 - ②子どもの特性や発達段階に応じた体力・運動能力を育成する。
 - ③望ましい食生活の基礎・基本と食習慣を身につけ、食事を通して自らの健康管理ができる力を養う。学級園での野菜づくり、講師を招いての高知野菜についての学習を通して食育を推進

する。

(4) 魅力ある学校づくりの推進に向けた取組

- ①総合学園として、幼・小・中高が連携して取り組むカリキュラムを構築し、幼・小・中高の繋がりを充実強化する。(幼小連携では年間カリキュラムの見直しと改善を行うとともに、小・中高連携においては、授業内容・授業研究会、クラブ活動、季節の行事等を系統的に行う。)
- ②英語教育では、ネイティブと専科教員の TT 方式の教育効果を高めるように、年間カリキュラムの見直し改善を行う。
- ③理科教育では、年間カリキュラムの作成・見直しを行うとともに、小・中高連携で行うプログラムを作成して、充実・発展させる。
- ④学校評価、授業評価等を実施し、寄せられた意見を基に学校運営等の改善を図り、信頼度の高い学校づくりを推進する。
- ⑤環境教育の推進を図る。地球環境を守るため自分たちできることから取り組んでいく。中庭に整備されたビオトープの活用(蛍の里づくり)、太陽光発電装置の活用に取り組む。
- ⑥補習授業や放課後の習い事、クラブ活動の充実を図る。
- ⑦発表会や記録会、各種コンクールなどに積極的に参加・出品する。
- ⑧読み・書き・計算を重視し、全校漢字・計算テスト、音読、日記・作文指導の充実を図る。

4 児童募集計画

- (1) 保護者の口コミが最大の武器であるから、教員の資質・指導力の向上を図り、「読み・書き・計算」を中心とした基礎学力の定着と向上、進学指導の強化、しつけ指導の徹底に努め、在籍する保護者からの信頼を確たるものにする。
- (2) 高知幼稚園卒園児の入学を増大させる。高知幼稚園との交流を一層活発にし、幼・小連携を発展させる。また、幼稚園から小学校へと繋がる一連の教育内容を構築する。(英語、サッカー等興味関心を持ち継続して取り組めるものを重点的に。)
- (3) 高知幼稚園との幼・小連携教育の取り組みや小学校へのつながりをアピールし、高知幼稚園・小学校が連携した募集活動を展開する。
- (4) 前期のオープンスクール、後期の学校説明会への参加者からの出願率が高いので、出席者への働きかけを行うとともに、特に前期の参加者増へ向けての取り組みを強化する。
- (5) 幼稚園・保育園を定期的に訪問して情報交換を行うとともに、連携強化に努める。
- (6) 学校案内、ホームページ、新聞広告、テレビ放送等の内容を充実させ、学校アピールに努める。
- (7) 習い事教室の充実等保護者のニーズに応える学校づくりを推進する。

5 人事計画

重点目標達成のためには、指導力の優れた教員の確保が必要である。その為には、各教科指導面と学級経営等、経験豊富な教員を採用していく。

1年生から6年生まで2クラス編成を計画している(合計12クラス)。また、音楽専科、英語専科(全学年ネイティブと専科教員によるTT)、理科時間講師(5・6年)と算数TT教員(4・5年生)は継続する。

- (1) 本務教員 17 名の計画である。(学級担任 12 名、専科教員 2 名、養護教諭 1 名、教頭 1 名、校長 1 名)
- (2) 兼務教員 8 名の計画である。〈理科 1 名、書写 2 名(課外硬筆 2 名重複)、図工 1 名、算数 TT 2 名、課外ピアノ 2 名〉
- (3) 本務職員 1 名の計画である。
- (4) 兼務職員 5 名の計画である。(バス運転手 4 名、事務補助 1 名)
- (5) その他 7 名 〈旭英会話教室より派遣(英語 2 名、習い事教室英会話 4 名) スクールカウンセラー 1 名〉

6 その他の計画

施設設備等教育環境の整備を行う。

IV 高知学園短期大学附属高知幼稚園

1 基本方針

- ・幼児自ら気づき、考え、行動することのできる「生きる力」の基礎を養うと共に、心身ともに健康でたくましい子どもを育成する。
- ・幼児期に大切な五感(視・聴・臭・味・触)を通じた体験学習を取り入れる。

2 重点目標

- (1) 五感を通じた豊かな体験をし、心身ともに健康でたくましい子どもに育てる。
- (2) 教職員は実践的な研修・資質向上に努め、子どもに「生きる力」の基礎を養う。
- (3) 地域や家庭、学園内組織(小・中・高・短大・リハビリ)との連携を更に深める。
- (4) 入園児確保のために、より効果的な募集活動をする。

3 教育研究計画

(1) 教職員の資質向上

- ①文献研究(幼稚園教育要領解説等)を学び、教育内容を充実し保育の質を高める。
 - ・講師を招聘し研究保育、研究協議を行う。又、園外への研修にも参加するよう努める。
- ②資料の収集と整理
 - ・幼児の実態
 - ・幼稚園の実態
 - ・地域と家庭の実態を把握し、幼児に及ぼしている影響を考える。
- ③実施に伴う反省と評価をする。

(2) 学園内組織との連携

高知学園短期大学幼児保育学科や生活科学学科、医療衛生学科、高知リハビリテーション学

院言語療法学科、高知中学高等学校との連携を密にすると共に、高知小学校との幼小連携を充実し総合学園としての魅力と特色を深める。

(3) 異年齢保育の取り組み

園生活のすべてを通して行われる異年齢とのかかわりによって、より深い人間関係を持ち、思いやりの心を育てるようにする。

4 園児募集計画

- (1) 園開放「あそびにおいでよ」の充実を図る。毎週水曜日に実施する。
- (2) 体験入園説明会を継続する。(年3回)
- (3) ホームページの充実を図り、園の様子を紹介する。また、ブログを継続する。
- (4) RKC子育て応援団に協賛し、キャンペーンCMを流す。(TV、ラジオ)
- (5) 子育て応援団 すこやか2016に参加して、園児の発表や園紹介をする。
- (6) 春季・夏季・冬季休業中の預かり保育を実施し、継続する。(月単位・一日預かり)
- (7) 高知小学校へ進学させるよう、保護者へアピールする。

5 人事計画

4月当初から7クラス編成。園長を含め本務教員5名、兼務教員9名、兼務職員3名、計17名で担当する。

6 その他の計画

交通安全、避難訓練(水害、地震、火災)・防犯訓練等を継続的に行い、安全管理と危機管理意識の徹底を図る。

V 高知リハビリテーション学院

1 基本方針

医学的リハビリテーションに関する高度で専門的な知識と技能を修得した、至誠心に富み、信頼される「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」を育成する。

2 重点目標

特に、経営上の重点目標である「先進・進取の伝統の継承と発展」「目的意識をもつ学生の確保」「有為な人材、信頼される療法士の育成」「先駆的な教育・研究環境の整備」「地域とともに歩む学院づくり」を推進していくため、次の取り組みに力を注いでいく。

(1) 先進・進取の伝統の継承と発展

平成30年には開学50年を迎える。全国に魁けて医学的リハビリテーションを我が国の職業

教育に導入した本学院の先見性と培われてきた伝統を継承し発展させていくため、教育にあたっては、変容する人口構造をはじめとした社会情勢の変化に対応していく、柔軟な発想と思考性のもとでのカリキュラムの編成や授業の展開等に努めていくとともに、地域リハビリテーションや在宅ケアなど、国の社会保障政策を見据え、かつ、先進的、実践的な教育を推進していくことにより、時代が求めるプロフェッショナルな人材を育成していく。

(2) 目的意識をもつ学生の確保

高等職業教育のもとで高度で専門的な知識と技能を修得していくためには、入学時において目的意識のしっかりした学生の確保が肝要である。

そして、このためには、療法士としての社会貢献度などの理解や職業観の醸成につながる情報の発信が大切であることから、こうした広報活動を積極的に行っていくとともに、オープンキャンパスなど、直接体験する機会を多く提供していくことも求められるため、高等学校の進路担当セクションへの訪問の強化を図り、また、県内はもとより中・四国での進学説明会を重点的に展開していくなど、関係団体とも連携した取り組みを推進していく。

(3) 有為な人材、信頼される療法士の育成

高度で専門的な知識と技能を修得し、医療等の職場に即応できる有為で信頼される人材を育成していくため、学生一人ひとりに応じ、4年間での到達度を設定したプログラムをもとに個別指導を深化させ、スタディスキル・ソーシャルスキル双方をアップさせていく。

また、国家試験対策については、傾向分析と対策の徹底・強化に努めるとともに、教員の研鑽・研修等を推進し、指導力を、一層、向上させ全員合格を目指す。

(4) 先駆的な教育・研究環境の整備

医科学の進展に即し、常に医療現場のニーズに応えていくことができるよう教育研究機器と教育の質及び内容の点検・再構築に重点的に取り組み、先端の教育システムを備えた高等教育機関としての環境の整備に努めていく。

(5) 地域とともに歩む学院づくり

土佐市及びその関係機関等との連携のもと、市民や地元学校と提携した健康増進のための学習講座や諸行事の開催など、地域での活動を重視した学校運営に努めていく。

また、児童の発達支援など地域に貢献していく事業の推進に向け取り組んでいく。

3 教育研究計画

(1) 学生のスキルアップ

基礎学力の向上への取り組みも行いながら専門知識、技能の修得のために必要な基本的教科の重点的な教育指導を進め、学生のスタディスキルをアップさせていくとともに、療法士に大切なコミュニケーション能力や礼節、至誠心といったソーシャルスキルをアップさせていく実践研修や実習教育等を積極的に展開していく。

(2) 教員の研鑽、研究活動の促進

医科学と関連技術の進展著しいことから、教員自ら積極的に専門知識等に関する研鑽を積み、研究に取り組むとともに、それら先進的な知見を教育に反映させていく授業構成やカリキュラムの編成等に努めていく。

また、日々授業内容や運営の改善・向上に向けた取り組みも不可欠であるため、教授法の研修とともに専門研修の活用や臨床現場との情報交換等も、さらに活発化させていく。

各々の職能団体が認定する「認定および専門療法士」の取得も促進していく。

4 学生募集活動

(1) 専願による学生確保

指定校推薦や特別推薦といった専願の制度による受験生の拡大を図るため、学校訪問を強化するとともにオープンキャンパスや出前講座等において積極的な学院紹介等を推進していく。高知高校特別入試とで定員の8割の確保を図る。

(2) 高知高校とのフェローシップの推進

フェローシップ（高知高校からの一貫した人づくり）をさらに推進していくため、高校2年生から出前講座を実施していくとともに、本学院での授業見学や病院訪問等による職業観の醸成にも取り組み、目的意識の高い学生の確保に努めていく。

また、フェローシップの生徒に対しては、入学選考終了後の高校在学時より基礎的学力から専門知識や技能等、療法士への入門的な学習講座を設け、入学後のリーダー的學生として育てていく。

(3) 学校訪問とオープンキャンパス

県内高校訪問を月例化することで担当教員等との人脈づくりを強化し、学校別の進路情報等の収集量を高めていく。

県外では、四国3県を対象にオープンキャンパス前に集中した高校訪問を展開していく。特に、県外からの学生に占める割合の高い愛媛県、中でも南予地域の高校に重点的な対応を図っていくとともに、時間距離が短縮されている四国中央地域への働きかけを強めていく。

学校訪問にあたっては、出前講座の実施についての働きかけを進め、本学院での学校生活や職業としての療法士、就職の実績等を広く浸透していくことができるよう努めていく。

オープンキャンパスについては、高校現場での進路指導の早期化に対応していくため、1・2年生を対象にした3月を皮切りに、6・7・8・9月と、入試前まで毎月実施し、来校を促していく。

内容としては、学校案内や資格と就職状況といった基本的情報から学科別体験授業を折り込むものや保護者らも対象にした公開講座を設けるものなど、実施時期を考慮したものにしていく。

また、県西部や東部からの来校の利便性を図るため、スクールバス等の運行を図る。愛媛県南予地域等からの来校を促進するため、移動手段を確保する。

(4) 高校説明会

高校の進路担当教員を対象に本学院へ招へいして行う教員説明会を引き続き推進していく

とともに、短期大学と合同で説明会を開催するなど、県内各高校と直接意見や情報を交換することができる場を設け、専願による学生確保等に向けた働きかけを強めていく。

(5) 広報活動

生徒や進路担当現場での利用度が高い進学情報誌を活用した学校PR、オープンキャンパスや入試時期などを捉えたTVや新聞での広告等、メディアを活用した広報活動を推進するとともに生徒等からのアクセスが多いホームページについては、常に新しい情報を盛り込み、さらに利用価値の高いものにしていく。

また、職業や学科を分かり易くPRしていくDVDなど情報媒体の活用を推進していく。

5 人事計画

(1) 本務教員

教育力の向上、学生指導の強化等を図っていくため、現場30名体制（特任2名含め現在29名）で臨んでいくことにしており、必要な教員の確保に努めていく。

(2) 兼務教員

87名体制（現在85名）の計画であり、必要な非常勤講師を確保していく計画である。

(3) 本務職員

現員の11名（うち、本部職員2名）体制の計画である。

(4) 兼務職員

11名（非常勤7名（現在6名に募集企画や地域貢献事業のため1名加える）、臨時4名）で臨んでいく計画である。

6 その他の計画

(1) 臨床実習活動

養成校が増加する中、継続して相当の臨床実習施設を確保していくため、施設訪問を中心に全国の本学院OBとも連携した取り組みを進めていく。

また、県内の施設関係者の一層の理解と協力を得ていくため、ブロック別の懇談会を引き続き開催していくことにしている。

臨床実習指導者（スーパーバイザー：SV）との意見や情報交換も大切であるため、巡回訪問とともに毎年定例的にSV会議を主催し、相互研鑽と研修の場を設けていくことにしている。

(2) 就職活動

新たな就職先の開拓を図っていくため、施設訪問等に努めていくとともに全国の施設の人事担当者と呼びかけ本学院で毎年行っている就職合同説明会の開催等により、引き続き100%の就職先を確保していく。